

都道府県・ 指定都市番号	19	都道府県・ 指定都市名	山梨県	研究課題番号・校種名	1 小学校
				教科名	音楽
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○音楽科において育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画と指導方法及び評価方法等の研究 (ア)「思考力、判断力、表現力等」と「知識」や「技能」との関連を図った指導と評価の充実に関わるもの				
ふりがな 学校名 (児童数)	うえのはらしりつあきやましようがっこう 上野原市立秋山小学校 (41人)				
所在地 (電話番号)	山梨県上野原市秋山 8674 (0554-56-2343)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.city.uenohara.ed.jp/akiyamashou/				
研究のキーワード ・新学習指導要領音楽科 ・我が国の伝統音楽 ・即興的な音楽づくり ・要素の焦点化 ・口唱歌					
研究結果のポイント ○ 音楽を形づくっている要素を焦点化し、それを学習の要としながら鑑賞と表現に関連させた授業の有効性について確認することができた。 ○ 郷土の音楽を教材として取り入れることで、児童が意欲的に学習に取り組み、題材の目標を達成することにつながった。 ○ 新学習指導要領の趣旨に則った授業改善と学習評価について検討し、実際に授業を計画・実践することで多くの成果が得られた。 ○ 口唱歌を手がかりにした学習や友達の表現を聴き合って自分の表現に生かす学習など、児童が生き生きと学習に取り組むことができるよう授業展開を工夫することで、豊かな学びにつながることができた。 ○ 指導と評価の一体化を目指し、児童の変容を教師が具体的に見取るためにさらなる工夫が必要である。 ○ 聴き取ったことと感じ取ったことを関連させながら学習を進めるための手立ての工夫が必要である。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

鑑賞と表現との関連性を重視した効果的な音楽的能力の育成

(2) 研究主題設定の理由

令和2年度から全面実施となった新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が明確化され、それらの育成の鍵として「見方・考え方」が示されている。音楽科において「見方・考え方」は、新学習指導要領に示されている〔共通事項〕と関わりが深い。

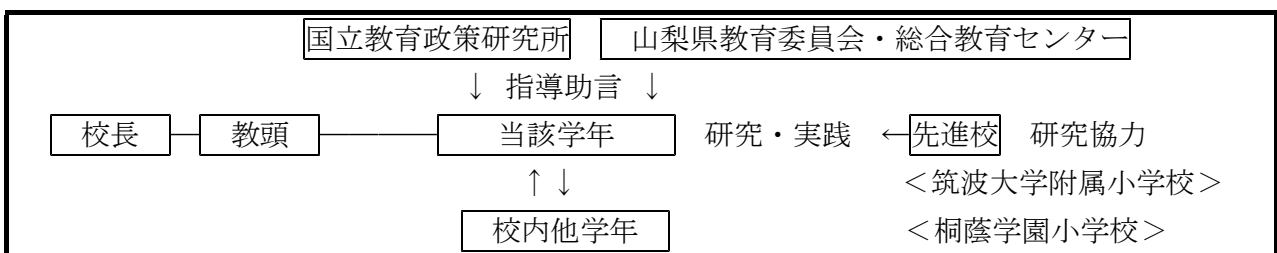
児童は、音楽の学習活動において、音楽の醸し出す雰囲気を感じ取ったり楽曲の中にある音楽を形づくっている要素に気付いたりする。また、友達とのコミュニケーションを通して自分で気

付くことのできなかった要素に新たに気付いたり、自分では感じられなかった楽曲に対する感じ方に触れ、自己の感じ方を広げたりする。「A 表現」の学習では、それらの聴き取ったことや感じ取ったことを基に表現の工夫をしていく。「B 鑑賞」の学習では、音楽を形づくっている要素を手がかりに楽曲の特徴に気付くとともに音楽のよさや面白さを味わう。このように、音楽科の学習では、楽曲について気付いたり感じ取ったりしたことが、音楽を形づくっている要素と深く関わっていることを、児童が実感し意識することが重要である。そして、聴き取ったことと感じ取ったことがどのように関わっているかを考え、音楽表現を楽しんだり音楽のよさや面白さを味わったりすることで音楽的能力を育む。

本校においても、〔共通事項〕を意識した学習は進められてきた。しかしながら児童の実態を見ると、音楽の学習活動の中で、様々な要素に気付くことができるが、その気付きが他の様々な音楽にも共通するものであると認識し、その後の学習活動に生かすことに課題が見られる。そのため、児童が「音楽を形づくっている要素」をより意識したり実感したりするような指導の工夫を行うことにより、児童が必要感をもって音楽の学習活動に取り組むことができるようにする。

本研究では、「A 表現」「B 鑑賞」の学習に共通して働く〔共通事項〕を要とし、「音楽的な見方・考え方」を働かせた授業の在り方を探ることを目的とする。そのために、表現領域と鑑賞領域の関連を図った授業を構成し、効果的な音楽的能力の育成につなげていきたい。そして、「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の視点として、それぞれの領域で学習したことを互いに活用しながら音楽的能力を育成できるような授業づくりを目指していきたい。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

令和2年度	4～5月	・表現領域と鑑賞領域の関連性のある教材の選定 ・関連性を重視した授業内容について検討，計画
	6～7月	・授業計画の見直しと授業実践
	9～11月	・事前研究会
	12月	・授業研究会（志民調査官来校）
	1月	・研究の振り返り
	2月	・研究協議会，研究の振り返り

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- 題材の目標を達成するための、適切な教材設定
- 指導と評価の一体化を目指した評価方法の工夫
- 児童が生き生きと学習できる授業の工夫

○豊かな学びのための対話と協働を意識した授業展開

(2) 具体的な研究活動

○題材の目標を達成するための、適切な教材設定

- ・鑑賞と表現の学習の関連を図る上で、学習の要となる要素を絞り、どちらの領域の学習においても同じ要素を意識した題材構成とした。
- ・我が国や郷土の音楽に親しむために学区に伝わる念仏踊りの音楽を鑑賞教材として取り入れ、比較しながら聴いた。
- ・祭囃子を扱う題材において鑑賞と音楽づくりに取り組み、どちらの学習でも口唱歌を手がかりに学習を展開した。鑑賞の学習では音楽を繰り返し聴いて特徴を聴き取ったり、味わったりするための手がかりとして口唱歌を用いた。音楽づくりの学習では、音楽づくりの発想を得るために口唱歌を用い、児童は口唱歌を歌いながら即興的な表現を楽しんだ。音楽づくりの学習では、リコーダーを使ってふしづくりをする活動も考えられたが、休校措置による学習の遅れや感染症予防を考慮し、打楽器を使ったリズムづくりの活動とした。リズムづくりの活動にすることで、口唱歌を手がかりとした鑑賞と表現の学習の題材構成をすることができた。

○指導と評価の一体化を目指した評価方法の工夫

- ・3観点での評価計画について、特に複数時間にわたって児童の変容を見取るような評価について工夫した。具体的には、題材を通して見通しをもって評価ができるよう、学習指導案において指導計画と評価計画に合わせてAと判断する児童の状況例や支援を必要とする児童への手立てについて同時に見ることができるようにした。
- ・即興的な表現において児童の変容を見取るためにワークシートの工夫をした。児童がつくったリズムパターンを記録する際には、前の表現を消すことなく新しく書き加えられるようなワークシートとし、表現の変容が残るようにした。

○児童が生き生きと学習できる授業の工夫

- ・児童が自信をもって即興的な表現を行えるよう学習の展開や手立てを工夫した。具体的には、児童が表現を完成させるまでの段階を細かく設定し、全員の児童が不安なく取り組むことができるようにした。教師や児童がつくったリズムパターンを真似したり、クイズ形式で当てたりするなど、「遊び」の要素を取り入れること、何度も繰り返して試すことができる時間を確保すること、それらの活動の中での教師の役割を考えることなど、様々な手立てを講じて授業をデザインした。

○豊かな学びのための対話と協働を意識した授業展開

- ・鑑賞の学習では、主に言葉を用いた交流を行った。児童の実態を考慮し、児童が聴き取ったこと感じ取ったことをあらかじめ提示した言葉の中から選択し、その理由について交流するようにした。
- ・音楽づくりの活動では、友達の表現を繰り返し聴く活動を中心とし、音や音楽を媒体とした対話の有効性について考えた。友達の表現する音、児童同士の話し合いや教師の言葉かけによってどのように表現が変化するか、児童の変容を見取ることを試みた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 〔共通事項〕において取り扱う音楽を形づくっている要素を焦点化し、それを学習の要としながら鑑賞と表現を関連させた授業の有効性について確認することができた。全ての児童に思考・判断のよりどころとして考えさせたい音楽を形づくっている要素を明確にし、学習活動を行うことで鑑賞と表現両方の学習がより強く結びつき、効果的に音楽的能力を育成することができるのではないかと仮説を得た。現時点ではまだ部分的な検証であるが、今後の研究の方向性について考えることができた。
- 地域に伝わる念仏踊りの音楽を鑑賞教材として取り入れたことで、児童が我が国や郷土の音楽に興味・関心をもって学習に取り組むことができ、題材の目標を達成することにつながった。
- 新学習指導要領の趣旨に則った授業改善と学習評価について検討し、実際に授業を計画・実践することで多くの成果が得られた。学習を通して育成を目指す資質・能力を明確にしながら学習目標と評価規準を作成し、それに基づいて実際に児童が学習する姿を見取り評価することで、より具体的に育むべき資質・能力や目指すべき児童の姿について考えることができた。
- 口唱歌を手がかりにした学習活動を行ったことで、児童が音楽を楽しみながら味わったり、音楽づくりの発想を得たりすることができた。口唱歌については、新学習指導要領解説においても言及されており、今後の音楽科授業において学習の手立てとして有効な活用法を探っていきたい。
- 即興的な表現では、児童が表現することを不安に思うことなく、また全ての児童が自分なりの表現ができるよう、様々な手立てを工夫した。児童は楽しく学習に取り組みながら試行錯誤を繰り返し、音楽づくりの発想を得ることができた。友達の表現から様々な工夫を見つけ出し、自分の表現の工夫に生かしている姿も見られた。
- 学習活動の中で、児童が聴き取ったことや感じ取ったこと、児童の思考の変容などを教師がより具体的に見取るための視点や方法について工夫すること。
- 学習活動の中で、児童が感じ取ったことを交流する場面を設定し、聴き取ったことと感じ取ったこととを結び付けて学習を進められるよう手立てを工夫すること。
- 他題材や他分野での実践を積み重ねること。

4 今後の取組

新学習指導要領の下、その趣旨に則った授業改善が求められている。様々な領域・分野での学習活動で有効な手立てを探っていかななくてはならない。また、評価についても今年度不十分であった点を改善し、充実した指導と的確な評価による指導と評価の一体化を図っていききたい。今年度の研究は、主に一つの題材を中心に研究を進めてきた。来年度は他題材での実践を重ね、鑑賞と表現を関連させた授業の教育的効果について考えていきたい。

GIGA スクール構想により 1 人 1 台端末の導入が進んでいる。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図るとともに、従来型の指導法と併せて ICT の効果的な活用を推進し、音楽科の授業における個別最適な学びの在り方についても考えていきたい。